

特集『勝山左義長まつりの魅力に迫る』
東京・関西勝山会から 他



笑顔と伝統に出会える旅

—— 勝山左義長まつりプレミアムツアー ——

勝山商工会議所会頭 荒井 由泰

勝山商工会議所主催の「勝山左義長まつりプレミアムツアー」は今回八回目を迎えました。二月二十八日(日)、二十七日(月)に開催されたツアーをご紹介します。今回のツアーには全国から四十名を超える方々にご参加いただきました。昨年、NHKの朝の連続ドラマ「と姉ちゃん」が人気を集めました。実在の人物である大橋さんが創刊した「暮しの手帖」の八十二号で勝山左義長まつりが写真満載で特集されたこともあり、お陰様で、いち早く定員に達しました。

初日はオリエンテーションの後、六～七人程度でグループ分けをして、市民ツアーガイドとともに櫓(やぐら)を巡りながら、左義長ばやし、作り物、そして絵行燈(えあんどん)と一緒に楽しんでいただきました。夕刻の懇親交流会では、地元の料理やお酒を楽しみながら、左義長ばやしの実演を鑑賞するとともに赤袴を着ての太鼓体験にもチャレンジしていただきました。体験タイムは必ず盛り上がりです。今後、通りの一角に太鼓を練習する場を設けるとともに櫓での体験も可能な仕掛けも必要になってくると思います。

また、祭りのフィナーレをかざる勇壮な「どんど焼き」で火の力を体感していただき、翌日は、勝山の魅力を満喫してもらうために「ゆめおれ勝山」と「平泉寺白山神社」をご案内させていただきました。

今回もたくさんの方に参加いただきました。今回初めて見ていただいた方々から「想像を超えた感動の祭りだ」との嬉しい言葉をいただきました。櫓の上で左義長ばやしを演じる子どもや大人の心の底から楽しんでる姿が皆さんの心に届き、感動につながるようです。そしてお雛子のリズムと笑顔がリピーターを生み出すように思います。

ツアーガイドをしながら、改めて「勝山左義長まつり」の持つポテンシャルを実感しました。もって市民は誇りをもっていると思います。もう少しお客様目線のおもてなしが必要かと思いますが、全国区の祭り、さらには世界の祭りに必ずなると確信しています。そのためにもしっかり情報発信をしていかなければならないと思います。次回のツアーからは勝山市観光まちづくり株式会社の主催となり、リノベーションされた「花月楼」を会場とし開催される予定です。全国からのたくさんの方のお越しを願っています。

特集

勝山左義長まつりの魅力に迫る

～ 県外の方から見た勝山左義長まつり～

平成29年2月26日(日)、勝山商工会議所主催で「勝山左義長まつりプレミアムツアー」が開催され、ふるさとルネッサンス委員が同ツアーに同行し、取材を行いました。

ツアー参加者である県外在住者から見た勝山左義長まつりの取材を通して、改めて勝山左義長まつりの魅力に迫りました。

【取材者】ふるさとルネッサンス委員 笠川小末、森本陽子、四谷由起夫、北川晶子(順不同・敬称略)

ツアー参加者の声

勝山左義長まつりの全体の感想

- ・素朴な町並みと雪山の雄大な景色に見とれた。
- ・すごく見応えのある祭りで感激した。子どもがかわいくてお囃子も地区によってそれぞれ違うので楽しかった。
- ・初めて見たが、歴史の重みを感じられ、またそれを保存している各地区の意気込みが素晴らしかった。
- ・小笠原の礼法等が長く受け継がれ、今日に至っていることの重みを感じられた。

特に何が良かった、興味深かったですか。

- ・太鼓を叩く子どもたちのおどけた仕草が元気をくれた。
- ・小さな子どもが大人の打ち手に憧れを持っているように見えた。そして、見よう見まねで楽しそうに演じていて、それが伝承されていることが興味深かった。
- ・櫓が立派で驚いた。
- ・若い女性の艶のある踊り。

何か感じたことやお気付きの点などありますか。

- ・太鼓の体験は祭りに参加した気分になり、祭りに来た人全員にやってもらった方が良い。
- ・もっと全国区のコマーシャルを流した方が良い。
- ・外国人向けの宣伝をすともっと人が集まって来るのでは。
- ・もっとおもてなしの工夫をし、気持ちを込めていけばまだまだ勝山の良さを伝えていけると感じた。
- ・コーヒー(有料)の休憩所があれば良い。

勝山市の方に一言メッセージ

- ・市民の一体感があり、これからも続けて欲しい。応援しています。
- ・全国、世界にこの勝山左義長まつりを広めていきましょう。
- ・究極の情操教育で、子どもたちは幸せです。
- ・見学者が気楽に参加できるよう声かけ運動をやりましょう。



色、恥ずかしさと緊張感、音痴の私がりズムを取れるのが不安感。しかし太鼓講座での「コツは腕を大きく振り上げるこ

私にとっては五十年ぶりの左義長まつり。子どもの時に少し恥ずかしい思いで聴いた「蝶よ花よ花よのねんね まだ乳飲むか乳ぐびはなせ乳くびはなせ」という独特の節回しと歌詞だけは何故か今でも鮮明に覚えている。その左義長ツアーに東京勝山会の仲間と一緒に参加した。

櫓で太鼓を打つ子ども達の底抜けに明るく素晴らしい笑顔と豊かな表情には驚いた。プロの役者ならいざ知らず、大変緊張する状況で、あのような笑顔は本来素人には難しいものであるが、心底楽しいからこそも生まれた笑顔だろう。大変感動した。作り物、絵行燈展示、酒蔵まつり、そして何より私を感激させた「勝山田舎料理」など強く印象に残ったことは数多い。

今回のツアーでの最高の思い出は沢区の櫓に上がり、「はっぴ」を着て実際に太鼓を打つこと。下から見るのとは違う上からの景色、恥ずかしさと緊張感、音痴の私がりズムを取れるのが不安感。しかし太鼓講座での「コツは腕を大きく振り上げるこ

と」のお話を参考に何とか実演を終えた。ぎこちなさはぬぐえなかったが充実感一杯だった。これからのツアーにもこうした櫓の上での太鼓体験をぜひ組み込んで欲しい。

ツアーの一つ「ゆめおれ勝山」の見学も印象に残った。「はた織り実演コーナー」では、女工哀史を思わせる当時の厳しい環境の中での話を交えながら淡々と説明される新谷さんの想いのこもった語りに感激。改めて勝山の織物の歴史の深さを感じさせられた。

次の「雪の平泉寺」は初めての経験であるが、平泉寺は何と云っても「美しい苔と神秘的な雰囲気」が売り。その意味では季節風情に合わないが無理にツアーの中に組み込まなくても良いのでは。その時間を他の体験ツアーに振り替えてはどうでしょうか。

最後に要望として、十二の櫓の特徴を事前に説明していただくと、個々の特徴が判り選択して有効に見学できる。また案内コースも「櫓」を共通に「作り物」「風刺川柳と絵行燈」「酒蔵」等の見学重点コースを設け、参加者が自由に選択できる方法も良いかも知れません。私たちが案内していただいた方々そして商工会議所ほか関係者の皆さん、本当に有り難うございました。充実した二日間でした。

「勝山左義長まつりプレミアムツアー」に参加して

東京勝山会 出口忠夫

取材を終えて



● 笠川小末 委員

小さい頃より勝山左義長まつりに親しんできた。昔は正月が明けると、太鼓の練習が始まり、毎日、自宅の土間では大きな音が響いていた。

勝山の下町で生まれた者にとって、一年を通じての行事だった。そのため「今年は輪番が当たっているので大変なんだ」などとよく聞かされた。準備から後片付けまで大変なご苦労だと思う。これからは市全体で行うことができないだろうか。

今回のツアーに同行して、小笠原藩の歴史と文化を勉強させていただ

いた。興味深かったのは、「作り物」は見た目で分かるようでは駄目なそうで、「何を表しているのかな」と見た人に考えさせ、書き流しを見て「ああ、そうか」と納得させる。それが「作り物」の醍醐味であり、楽しみ方であるとのこと。

また、ひと昔前までは男性だけの祭りだった。今は男性も女性も櫓の上で浮く。

春を呼ぶ左義長。雪に閉ざされた奥越の地に、短冊が舞い、太鼓や三味線、笛が鳴り響く。これからも傳承していかねければならないと強く感じた。



● 森本陽子 委員

左義つちよ祭りを見て帰った後、湯船に浸かっていると、蝶よ花よ：のお囃子と三味線等が頭の中で鳴り



続けていた。正味二時間程聞いたけなのに、いつの間にか身体に染み込んでいたことに軽い驚きを覚えた。この感覚が結構病みつきになるかも…。

さて、ツアー参加者の声から次のことを感じた。

一つ目は、各地区の特色を紹介するパンフレットがあったら良かった。十三地区を十把一絡げにして紹介するのではなく、地区の特色を明確に打ち出したパンフレットがあれば好みの地区を選んで見て回ることができる。二つ目は、ツアーの中で太鼓の体験が楽しく、櫓の上から見る景色は格別だったとのこと。太鼓の体験がもっと出来れば、楽しい思い出をもう一つ増やすことができると思う。三つ目は、「作り物」に足を止め

てじっくり見る方が少なく、とても残念である。せつかくの作品をあまり意味も分からずあっさり見て終わるのはもったいない。「見立てる」この意味を理解して初めて作品の奥深さが見えてくるのではないだろうか。四つ目は、櫓をじっくり見られるスペースの確保。本町通りの建物の二階部分から櫓の風景を眺められるようなカフェやお茶呑み処があったら良い。とても寒い時期なので、温かい飲み物を飲みながら少しの時間だけでも眺められたらと思う。最後に、市民レベルで「左義つちよ」を紹介してくださる方が増えれば、自然に訪れる人も増えると感じた。そして、もっとたくさんさんのボランティアガイドを養成し、「左義つちよ文化」を広く知らしめたい。





● 四谷由起夫 委員

毎年、左義長まつりには孫を連れながら見に行っていたが、櫓の上での浮き太鼓等を見るのが主だった。今回の取材で改めて感じたことが多々あった。

勝山左義長まつりは、旧勝山地区十三区で開催され、平成二十年に福井県の無形民俗文化財に指定された。祭りの特徴としては、十二地区で建てられた櫓の上で赤い長襦袢姿の男衆や子どもたちが、三味線や笛、鉦のお囃子とともに太鼓を叩きながら一日中浮かれ踊る。昔、遊郭にいた若者が、遊女の赤襦袢を着て櫓に上がり太鼓を叩いたことが始まりとされている。まさにこれが「奇祭」と言われる理由である。
また、地区ごとに作られる「作り

物」は、生活道具等を使い、その年の干支や時世を表している。

辻行燈は「絵行燈」とも呼ばれ、昨今の話題や庶民の願望、世相を風刺した川柳に挿し絵が添えられており、笑えたり、納得したり、時には考えさせられたりと種類も多く、見る人を楽しませている。県外の方や外国の方なども興味を持っていた。

そして、最終日の夜に行われる「どんど焼き」。御神体の松飾りに招いた「歳徳神」を五穀豊穡とともに鎮火を祈願しながら天に見送るという左義長本来の神事である。冬空美しく雪に映えて燃えさかる炎の競演とともに祭りのフィナーレを迎える。

今回改めて感動を覚え、素晴らしい「ふる里に春を呼ぶ奇祭」勝山左義長まつりを今一度、全国にアピールしたい。今回のツアーに参加された方の声でもある。



● 北川晶子 委員

今回、ボランティアガイドの久保氏、勝山商工会議所の村上専務の案内で、上袋田区、下袋田区、上長淵区、沢区、芳野区、上郡区の櫓をツアーに参加された方と一緒に回り、おどけた仕草や身振りの「浮き太鼓」や時世を謳った「絵行燈」、未来へ繋ぐ「子ども囃子」に、皆さんが感動されていた。

また、途中で立ち寄った一本義の酒蔵まつりでは新酒に酔いしれ、沢区では櫓での太鼓体験で参加気分が盛り上がり、芳野区では作り物や雪だるまなど町民挙げての取り組みに感心し、勝山左義長まつりを大絶賛されていた。

そこで、更に祭りに来ていただく方を増やすことや勝山左義長まつり



の素晴らしさを伝えるための要望をいくつかいただいた。

一つ目は、勝山左義長まつりの漫画の冊子の作成。二つ目は、各地区での太鼓体験。三つ目は、各地区の住民の方から祭りに来た方への声かけや案内。四つ目は、勝山左義長まつりツアーをふるさと納税の返礼品にできないか。

ツアーの参加者と会話しながら、祭りに来た方が一番望んでいることは、住民とのふれあいだと感じた。「勝山市民が勝山左義長まつりにもっと関心を持ち、積極的に祭りに来た方に声かけをしてほしい」とのことだった。私も反省させられた。良い体験をさせていただき取材に感謝した。





勝山市への応援メッセージ

関西勝山会 監事 松井昌夫

関西勝山会は、昨年90周年を迎えましたが、勝山に住む父母、兄弟が亡くなり、故郷が遠くになっております。

平成26年9月に勝山市主催の市制発足60周年記念行事に関西勝山会の我々役員一同が出席させていただきました。

その折りに気付いた感想の一部を述べさせていただきます。

観光客の受入れ体制ですが、目玉施設の福井県立恐竜博物館や越前大仏があるにもかかわらず、ほとんど観光客は日帰り客、あるいは宿泊客は芦原温泉等へ流れている現状です。

したがって、恐竜博物館のみでは、滞在時間も短く観光収入の増加には結びつきにくいと思われます。改めて温泉施設等のハード、ソフト面の充実が望まれます。

長期的には、少子高齢化社会に入り、人口は減少傾向にあります。60年前の市制発足時の勝山市の人口は、39,000人強でしたが、直近の人口は24,000人強とのことで約6割に減少しているのが現状です。今後いかにして観光客を呼び込むか。勝山市の活性化を

図ることが望まれます。

そこで、勝山ニューホテルのハード、ソフト面の改善、白山平泉寺の宿泊施設、勝山温泉センター水芭蕉の地下掘削工事による本格温泉施設への転換により、インバウンド集客とグルメを組み合わせた観光施設の充実を図り、新規観光客の増加に結びつけたいものです。

長期的な観光収支予算を計上いただき、設備投資されては如何でしょうか。



東京勝山会のご案内

東京勝山会 副会長 荒井 覚

東京勝山会の新たな方向について、役員会で検討中です。

今日では、どこの自治会、友の会、クラブでも高齢化による会員減少で、会の現状維持は問題になっているようです。

当勝山会でも、新会員の募集の進めとして、新旧役員の交替を考えております。

まずは、戦前生まれ、戦後生まれの線引きです。昭和21年から昭和25年まで（第一次ベビーブームに生まれた人たち）の団塊の世代の人たちが中心になる会が成功しております。昨年開催された東京勝高会同窓会は104名の参加があり、大盛況だったと聞いておりますので、東京勝山会でも是非連携して、次回より新しい総会を期待したいと思っております。

(お願い)

- 団塊の世代の人たちが集まり、新しい話題とアトラクションを考えておりますので、情報を事務局までご連絡ください。
- 参加者の方は、友人、知人が勝山会に出席したくなるような呼び込みをしてください。

第64回「東京勝山会総会・懇親会」ご案内

日時 平成29年10月15日(日)12時～
場所 東京銀座 ライオン銀座七丁目店



ふるさと納税でぜひ勝山市に応援をお願いします!!

ふるさとを応援したいという方々の想いを実現するため地方自治体に寄附ができる「ふるさと納税制度」

たくさんの応援をありがとうございます

ふるさと納税 443件 1,806万3千円 (H28.3月~H29.2月受付分)

皆さまからいただいた寄附金は、平成29年度に実施するジオパークまちづくり推進事業、国民体育大会選手強化事業、エコ環境都市推進事業、母子保健事業、白山平泉寺の観光PR推進事業、観光のまち推進事業など、勝山市の幅広い分野に活用させていただきます。

今後とも勝山市へふるさと納税による温かな応援をよろしく申し上げます。

山 川 凉 子 様 (大阪府)	お名前のみ公表	(株)豊栄観光様 (勝山市)	1,000,000円	近 藤 義 親 様 (大阪府)	50,000円
久 保 江 理 様 (石川県)	お名前のみ公表	牧 下 昭 夫 様 (茨城県)	お名前のみ公表	龍 信之助 様 (東京都)	80,000円
竹 内 誠 様 (-)	お名前のみ公表	勝 見 健 二 様 (京都府)	100,000円	宇 野 文 男 様 (三重県)	30,000円
浅 野 裕 幸 様 (埼玉県)	お名前のみ公表	皿 澤 康 孝 様 (東京都)	お名前のみ公表	山 内 高 嘉 様 (東京都)	30,000円
龍 倫之助 様 (東京都)	お名前のみ公表	皿 澤 朝 子 様 (東京都)	お名前のみ公表	岸 下 武 雄 様 (神奈川県)	お名前のみ公表
中 尾 彬 様 (東京都)	100,000円	皿 澤 康 志 様 (東京都)	お名前のみ公表	米 脇 さとみ 様 (富山県)	お名前のみ公表
金 森 茂 治 様 (-)	お名前のみ公表	皿 澤 ゆかり 様 (東京都)	お名前のみ公表	山 岸 吉 則 様 (兵庫県)	お名前のみ公表
三 谷 清 子 様 (-)	お名前のみ公表	皿 澤 宏 章 様 (東京都)	お名前のみ公表	湯 屋 基 生 様 (神奈川県)	お名前のみ公表
太 田 諒 様 (福井市)	30,000円	皿 澤 千枝美 様 (東京都)	お名前のみ公表	細 野 治 様 (群馬県)	200,000円
森 内 俊 司 様 (-)	お名前のみ公表	山 岸 幸 江 様 (千葉県)	100,000円	安 居 早 苗 様 (京都府)	300,000円
山 口 正 孝 様 (愛知県)	1,000,000円	吉 田 数 子 様 (大阪府)	お名前のみ公表	森 瀬 博 信 様 (東京都)	600,000円
山 内 陽 子 様 (福井市)	200,000円	西 野 隆 様 (石川県)	100,000円	長 谷 川 秀 夫 様 (東京都)	50,000円
牧 野 俊 行 様 (坂井市)	50,000円	佐 野 幸 男 様 (-)	50,000円	建 国 記 念 奉 祝 者 御 一 同 様 (勝山市)	40,000円
三 屋 清 栄 様 (石川県)	100,000円	国 村 守 様 (石川県)	30,000円		
中 下 正 巳 様 (奈良県)	お名前のみ公表	廣 田 政 治 様 (大阪府)	お名前のみ公表		

(上段から受付順に掲載)

※お名前の公表を承諾された方のみ掲載しております。

※誌面の都合上、3万円以上のご寄附をいただいた方のみ掲載しております。全ての方のお名前は市ホームページに掲載しております。

ガバメントクラウドファンディング「ホワイトザウルスの復活 リ・ボーン作戦」 ご寄附ありがとうございました

509件 8,362,073円 (H29.2月末現在)

昨年10月よりご寄附を募り、今年1月末をもちまして受付を終了いたしました。

一日も早いホワイトザウルスの復活に向けて、勝山市に縁のある福岡県在住のお二人からそれぞれ50万円のご寄附が寄せられるなど、市内外の多くの方々からご厚情を賜りました。なお、ご寄附をいただきました方のお名前は、ホワイトザウルス設置広場に掲載させていただく予定です。(公表に承諾された方のみ)



“勝山市まちなか誘客プロジェクト”事業にかかる 企業版ふるさと納税

「株式会社旅行出版社」様 (大阪府)、「株式会社クイックフォックス」様 (東京都)よりご寄附のお申込みをいただきました。

同事業の事業期間は、平成31年度までとなっております。平成29年度も随時ご寄附を受付けております。

お問合せ・お申込みは下記連絡先(勝山市未来創造課)までお願いいたします。



ふるさとルネッサンス委員

委員長 丸 屋 仁 志 委 員 森 本 陽 子 委 員 荒 尾 るみ子
委 員 荒 井 由 泰 // 阿 部 光 郎 // 北 川 晶 子
// 笠 川 小 末 // 四 谷 由 起 夫 (順不同・敬称略)

発行/ふるさとルネッサンス委員会 (事務局) 勝山市総務部未来創造課

〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 TEL.0779-88-1115 FAX.0779-88-1119

e-mail:rune@city.katsuyama.lg.jp 勝山市ホームページ:http://www.city.katsuyama.fukui.jp

ゆっくい
のんびい
観光に
きませんか?

